

2 学年 模擬講義 対面で実施

9月13日（火）2学年生徒を対象に、大学の先生方による模擬講義を実施しました。対面での実施は3年ぶりです。大学の講義を直接受講できる貴重な機会でした。

番号	所属大学 所属学部	職名	講師名	模擬講義タイトル
1	北海道教育大学函館校 国際地域学科	准教授	河 錬洙 八 ヨンス	国際協力政策
2	弘前大学 人文社会科学部	准教授	花田 真一	数字に騙されないで！ 確率と統計で疑う「あたりまえ」の世界
3	岩手県立大学 総合政策学部	教授	吉野 英岐	地域社会と総合政策
4	青森県立保健大学 社会福祉学科	講師	田中 尚樹	障害者の暮らしと社会福祉
5	岩手大学 農学部	教授	小森 貞男	果樹の遺伝資源
6	青森県立保健大学 栄養学科	准教授	大野 智子	栄養と健康問題
7	弘前大学 理工学部	教授	御領 潤	いろんな顔をする電子 ～ミクロな世界の物理学～
8	東北大学 工学部	教授	長尾 大輔	同じ原料でも作製法で機能が大きく変わる ナノ材料づくり ～素材の特徴を活かした材料の作り方を考える～

生徒の感想

講義1：北海道教育大学函館校 河 錬洙 先生

講義1：同時多発テロで3千人が亡くなったとき、世界で5万人が貧困や飢餓で亡くなっていることが報じられていないということが印象的だった。貧困や飢餓においての水の重要性がよく分かった。貧困と差別の中で希望を失う子どもが1人でも少なくなっしてほしいと思った。将来、どのような形で人を助ける職業に就き、人助けが自然とできるような人になりたいと思った。また、世界の現状に関心を持ち続けていきたいと思った。



講義2：数字や結果は正しかったとしても、言葉のニュアンスが少し違ったりすることで、事実は異なることがあると分かりました。確率や統計として物事を表すことで、見えなかったり、気づけなかったことに目をむけられるのはすごいことだなと思いました。また、文系側の話として、大学のことを聞いたのも良かったです。直接的に進路の参考にならなくても意識がまた1つ別の方向に向くことができたと思います。

講義2：弘前大学 花田 真一 先生



講義3：岩手県立大学 吉野 英岐 先生

講義3：地域を活性化させるために必要な要素や、地域を動かす原動力は何かなど、花巻市の例や、十和田市のこれまでの町おこしへの取り組みを例にあげていたので、それらをきちんと理解することができました。特に地域再生の主演は住民であり、役所・役場は活用するもの、という言葉が印象に残っていて、自分がテーマ追究で調べていることにつながっていて、今回の講義は確実に自分のためになるものだと感じました。身近な町についてこれから考えてみたいと思いました。

講義4：・「障害は社会との相互作用により生じる」という言葉は印象に残りました。

- ・自閉症スペクトラム症などについて早い段階からの自己理解や適切なサポート、支援の活用が必要だということが分かった。私たちも障害者も住みやすいよりよい社会にしていくなりたいと思った。「福祉」とは「ふつうのくらしのしあわせ」なのだと言った。



講義4：青森県立保健大学 田中 尚樹 先生



講義5：岩手大学 小森 貞男先生

講義5：・講義の中で、「好きなことをして仕事

が楽しい」という言葉が印象に残りました。

- ・農業には人を飢えさせないようにする責任や、人々が豊かな生活を送れるようにする責任があり、社会の役に立つものだと分かりました。また、果実になぜ種がないものがあるのか、という話が一番興味深かったです。モモの種の固い部分は核であり、たとえ種なしの品種をつくったとしても固い部分があるということが不思議だと思いました。

講義6：青森県立保健大学 大野 智子先生



講義6：私はほぼ毎日朝食と昼食を自分で用意しているのですが、食事内容を振り返ってみると、野菜・果物・汁物が不足していたので、よりよい健康のために増やしていきたいと感じました。普段エネルギー必要量を考えながら食事をするのがないので、各栄養素の割合も気にしながら食事をする日を作ろうと思いました。今の健康、将来の健康のためにバランスの良い適した量の食事を探っていきます。

講義7：・「物理学」では、宇宙のような規模が大きいものから、量子力学のような小さいものまで、色々なことを扱うことがわかりました。身の回りのものごとは、実験で解決できることもあるけれど、規模が大きいものや小さいものは理論を考える必要があることや、測定しようとして外から力を加えると、小さいものは普段の様子と変わってしまって測定のしようがないので、相対性理論などのように「仮定」をすることしかできないものもあることがわかりました。とても面白かったです。



- ・弘前大学が医学分野で使うロボットや地域に根ざした研究をしていることを初め知った。 講義7：弘前大学 御領 潤 先生



講義8：東北大学 長尾 大輔 先生

講義8：食べ物を作ることにたとえてくれたので分かりやすかった。ちりなどの粒子は、もともと排除されるものだったが、今は除菌するために使われていて、時代の変化や研究の変化によって、役立つものに変えられると分かった。何かを作るというときに、最近では特殊な材料だけではなく普通の材料で作り方を変えることで、同等のものを作ることができ、作り方を確立させることが重要なのだと思った。アイデアが出て、必ず問題点があって、それを解決するために研究したり見方を変え、さらに新しいアイデアを生み出していくことも大切だと思った。

英作文エグゼクティブ講座も対面で実施 桜美林大学教授 戸崎 肇先生

9月11日(日)に2・3年生の受講生徒を対象に「英作文エグゼクティブ講座」(講義)を対面で実施しました。こちらも対面での講義は3年ぶりです。添削で学習してきた英作文に関する重要事項の再確認や、その場で出題された問題を数名の生徒が板書し、その解答を比較しながら正解を学ぶ、など対面ならではの講義でした。

